

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

星図はステラナビゲーター11を用いて作成

4月中旬の夜8時頃の星空は、天頂をはさんで大きな2頭の動物の星座が並んでいます。南の空に駆け上がるように昇っているのは春の代表「しし座」で、その北高くに昇っているのは「おおぐま座」です。天頂近くの南の空を見ると、「？」の形を裏返しにしたような星の並びが目につきます。これは「しし座」の頭から胸にかけての部分で、草刈り鎌に似ていることから「ししの大鎌」と呼ばれています。また、ししの胸のところで光っているのは1等星のレグルスです。しっぽの先の2等星デネボラに向かって、順に星をたどっていくと、長四角の胴、三角のしっぽがあり、前足・後ろ足の星もあって、ししの姿が浮かびあがります。一方、しし座の北側には同じぐらいの明るさの七つの星があり、水を汲むひしゃくのような形に並んでいます。これが「北斗七星」です。北斗七星は「おおぐま座」の一部で、おおぐまの腰としっぽにあたりますが、明るいのでとても見つけやすく、よく目立ちます。また、「北斗七星」のひしゃくの柄の部分をつまんでいくと、明るい星が見つかります。うしかい座のアルクトゥルスとおとめ座のスピカです。このひしゃくの柄の部分から伸ばしたカーブを《春の大曲線》、アルクトゥルス・スピカ・デネボラを結んだ三角形を《春の大三角》と呼んで、春の星座を探す目印となっています。

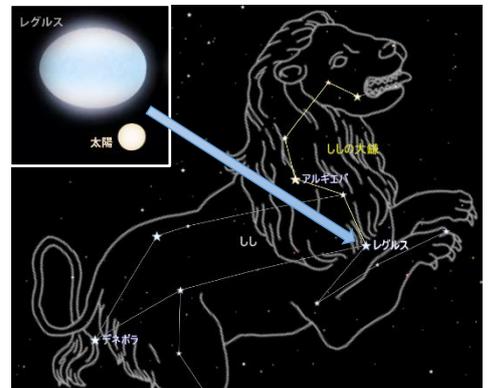


★ しし座のα星「レグルス」

アルファせい

レグルスという名前はラテン語で「小さな王」という意味ですが、同じラテン語で「ししの心臓」という意味の、コル・レオニスという別名も持っています。全天で21個ある1等星の中では、明るさが1.3等と1番暗い星で、輝き始めてから5000万年しかたっていない、若い星だと考えられています。直径は太陽の約4倍もありますが、自転周期は約16時間と非常に短く、秒速約321kmという猛スピードで自転しています。そのためレグルスの形は赤道方向へ膨らみ、かなりひしゃげた形をしていると考えられています。

↓ レグルスの想像図と太陽との大きさの比較/
Pablo Carlos Budassi (CC BY-SA 4.0)



★ 夕方の空で水星を見つけよう！

ゆうがた

すいせい

4月上旬から下旬にかけて、水星を観察する今年1番のチャンスです。水星は太陽に最も近い惑星なので、地球から見ると太陽の方向からあまり離れません。水星を見つけやすくなるのは、太陽からの見かけの位置が離れる最大離隔の頃です。4月12日に水星は東方最大離角となり、日の入り後30分頃に西の低い空で見つけやすくなります。特に今回は、水星よりも少し高い位置に金星がとても明るく輝いています。金星を目印に、西の低い空で水星を探してみましょう。

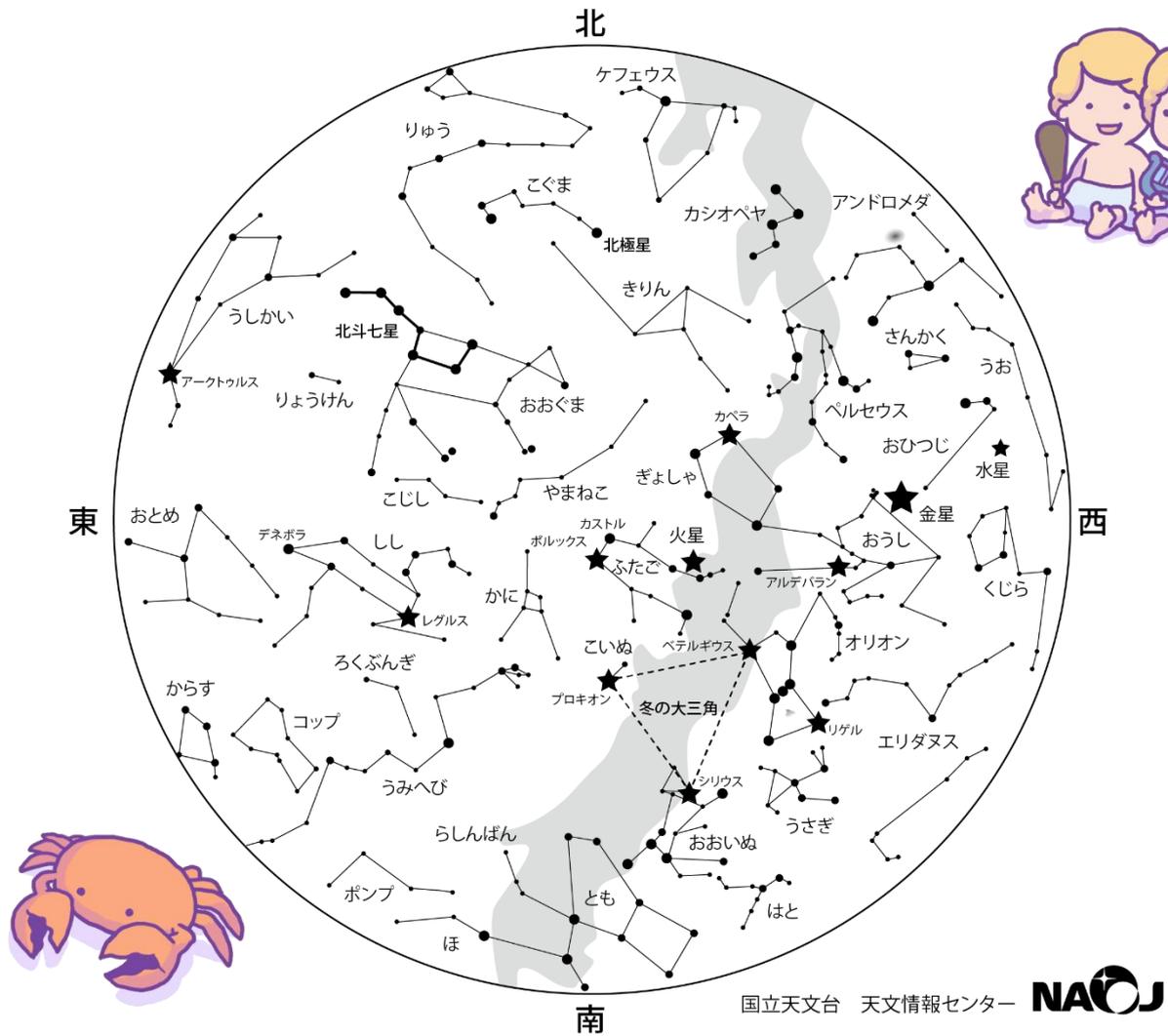
↑ ずっと上に見える明るい星は金星



★ 4月よりプラネタリウムが新しくなりました！

詳しくはホームページ・館内掲示物をご覧ください ★

4月上旬午後7時頃の星空



★ 4月上旬の主な天文現象

2日(日) 月としし座のレグルスが近づく	11日(火) 金星とプレアデス星団が接近
5日(水) 清明	12日(水) 水星が東方最大離隔
6日(木) ○ 満月	13日(木) ● 下弦

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 4/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 4月 2日(日)	[見やすさ ◎]	19:53 北西	~	19:56 天頂
◇ 4月 3日(月)	[見やすさ ◎]	19:05 北西	~	19:10 東南東
◇ 4月 4日(火)	[見やすさ ◎]	19:54 西北西	~	19:57 南南西
◇ 4月 5日(水)	[見やすさ ◎]	19:05 西北西	~	19:11 南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。